様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２０００

研究課題名（和文）在宅医療を中心とした調査をもとにした現象学的な行為論および間主観性論の試み

研究課題名（英文）Phenomenological theory of practice and intersubjectivity based on the field research of home care aid

研究代表者
村上　靖彦（Murakami, Yasuhiko）

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：３０３２８６７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：在宅医療とりわけ訪問看護と在宅における子育て支援の現場をフィールドワークするとともに援助職にインタビューを行った。成果として在宅医療を主に扱った単著『仙人と妄想デートする　看護の現象学と自由の哲学』（人文書院）を出版するとともに、『在宅無限大』〔医学書院〕30年度中に出版予定である。また在宅での子育て支援についても単著『母親の孤独から回復する　虐待のグループワーク実践に学ぶ』（講談社）を出版した。また海外および日本において論文を執筆するとともに学会発表も行ってきた。

研究成果の概要（英文）：Based on the field research of the nurses in the milieu of home care aid and also the research of the social activity on the abused children and the support for mothers, I published several books and many articles. Especially, I published a book on the visiting nurse and on the psychiatric visiting nurse was published in 2016 and a book on the psychological group program for abusing mothers (who also are victims of abuse in their childhood) in 2017. I also prepare another book on the visiting nurses.

研究分野：哲学

キーワード：質的研究　看護　子育て支援　在宅医療　現象学

１．研究開始当初の背景

研究代表者は2003 年から始めた小児科病院での自閉症研究以来継続的に、医療現場をフィールドワークしながら現象学的な研究を行っている（文献31『自閉症の現象学』）。2010年から看護師・助産師へのインタビューを継続的に行い、現象学を方法論として用いて分析を行い、その成果をとりわけ『摘便とお花見 看護の語りの現象学』（2013）として公にした。

この研究のなかで、看護師の実践が（通常知られている哲学上の行為論にも、看護学の実践モデルにも収まることなく）極めて多様であることに気づいてきた。さらに訪問看護師にインタビューを取るなかで、病院での規格化された医療とは異なり、患者の住まいで患者と家族に合わせて行われる実践が多様でありかつ偶然に支配されるため、行為論としても間主観性論としてもいまだ未踏の豊かな素材を与えてくれるということに気がついた。

訪問看護およびデイケアの参与観察を行うとともにインタビューも重ねることで、病院での医療と地域医療との連関を学ぶとともに、精神障害者が健常者とともに安心して住むことのできる社会の形成を、個々の医療者の実践を通して観察してきた。

医療をめぐる社会状況が、（身体科そして精神科ともに）入院治療の看護実践から（病態の重い患者も含めて）在宅医療へと移行するなかで、住まいにおける生活の作り直しとそのサポートが、どのような構造を持つのかについて個別の検討をするという課題が浮かび上がってきた。

２．研究の目的

本研究では、以下のことが目的となった。

・1)介護度の高い患者の看護・介護において、医療者、患者や家族がどのようにコミュニケーションを取り、各自が行為の主体となってゆくのか、現象学を方法論によって検討する。対象となるのは、3 つの異なる在宅医療の場面である。1 つ目は末期がん患者などの看取りを行う訪問看護、2 つ目に人工呼吸器を使用するような介護依存度の高い患者の生存のための介護、3 つ目が重度の精神障害者の在宅生活や虐待などの逆境にある人たちを地域でサポートする場合である。3 つの異なる領域の医療福祉実践を「在宅」という論点でまとめることで、生のサポートから死に至りつつ極度に個別性の高い在宅医療の持つ豊穣さを哲学へと昇華することが目的となった。

３．研究の方法

・本研究は、参与観察およびインタビューを用いたフィールドワークによってデータを採取し分析する。

・フィールドワーク先は在宅医療現場である。

・データは現象学の方法論を用いて分析する。いくつかの点を除いてフッサールの方法を継承するが、方法論の詳細については、研究の遂行に応じて決定してゆく。

・可能な限り、既存の哲学、医学、看護学、医療社会学、医療人類学の知見を参照するが、分析そのものはデータへの忠誠を再優先にするが。

方法は〈現象学〉を用いた。フッサールに由来する現象学は、彼自身においても事象あるいは経験を分析するための方法論として意識されていた。さらにメルロ＝ポンティにいたって経験科学のデータを分析し、哲学へと鍛えあげる技法へと発展した(Merleau-Ponty 1945)。

近年、西村ユミによりメルロ＝ポンティの技法が看護実践の分析へと発展されるに及んで、新たな方法的展開が生じている（西村2001）。

参与観察およびインタビューによって研究者自身がデータを採取し、研究者自身が現場にコミットすることでのみ可能になる分析がある。

４．研究成果

（1）訪問看護師を中心とした在宅医療についてのフィールドワークとインタビュー調査から、彼らの実践上の特徴を描き出すことができた。患者の快の確保、患者や家族の願いを聞き出し実現する実践、患者や家族が直面する困難な状況への応答を手助けするサポートといった側面を切り口にしながら、訪問看護師の技能を描き出し、数本の論文をすでに公表したほか、単著として『在宅無限大　訪問看護の現象学』（仮題、2018、医学書院）を準備中である。

今後は在宅医療だけでなく、専門看護師を中心として卓越した看護実践についての研究を続ける予定である。

（2）虐待に関わった母親たちを心理的に支援するグループプログラムを科研期間中3年間にわたってフィールドワークすることで、地域において虐待や逆境に陥った親子を支援する援助者の実践と当事者の回復過程について明らかにし、単著『母親の孤独から回復する』（2017、講談社）を出版した。加えて地域における子ども支援のネットワーク作りについて調査を始めているので、今後も続けていく。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 18 件）

村上靖彦，「システム改革の黒子としてのCNS　がん看護専門看護師春木さん」，『看護研究』，査読無、51-2, 167-172，2018. https://doi.org/10.11477/mf.1681201498

村上靖彦，「看護における願いと力 在宅看護専門看護師　佐藤直子さん」,『看護研究』, 査読無、51-1, 79-84. 2018. https://doi.org/10.11477/mf.1681201479

村上靖彦，「すき間にケアを届かせる　精神看護専門看護師大橋明子さん」,『看護研究』. 50-7, 699-705，2017 https://doi.org/10.11477/mf.1681201458

村上靖彦，「見えなくなる看護とスイッチをつくるナース」，『看護研究』，査読無、50(6), pp. 607-612，2017.

村上靖彦，「1.5 人称の看護　患者に踏み込む人としての専門看護師」，『看護研究』，査読無、50,(5), p. 493-498, 2017. https://doi.org/10.11477/mf.1681201424

村上靖彦，「当事者研究と現象学」，『臨床心理学』，査読無、増刊 9、pp. 61-65，2017

村上靖彦，「経験の流れを内側から捉える知現象学と他の方法はいかにして補い合うのか」,『看護研究』, 査読無、50(4), pp. 325-329, 2017. https://doi.org/10.11477/mf.1681201442

村上靖彦，「ポリリズムとしての人間、メタリズムとしての治療者」，『文藝別冊』，査読無、pp. 169-173，2017

yasuhiko murakami，« La psychopatholgie renversée en partant du soutien à domicile des schizophrènes graves dans le cadre de l'ACT », *Studia Philosophica Europeanea*，査読無、6(1-2)/2016, pp. 212-241，2017

村上靖彦，「変化の触媒としての支援者」，『臨床精神病理』，査読無、37(3)，277-286，2016

村上靖彦、「共生の技法としての「あいだ」--虐待渦中にある親の回復プログラムを例に」、『現代思想』、査読無、vol. 44(12), pp.252-264, 2016

村上靖彦，「（複数の）声を取り戻す--回復してゆく虐待加害者から学ぶ」，『臨床心理学』，査読無、vol. 16(5), pp. 518-522, 2016 .

村上靖彦，「インタビュー分析の言語学的基盤、個別者の学としての現象学」，『看護研究』，査読無、vol. 49(4)，pp. 316-323, 2016. https://doi.org/10.11477/mf.1681201265

村上靖彦、「「死ぬのに楽しい」：訪問看護における看取りをめぐる現象学的な質的研究」，査読無，『Heidegger-Forum』，vol.10, , pp. 104-126, 2016. http://heideggerforum.main.jp/ej10data/murakami.pdf

村上靖彦、「精神看護における接遇についての一考案　看護師へのインタビューに基づく現象学的な質的研究」、大阪大学大学院人間科学研究科紀要、査読無 vol.41, pp. 43-60、2015

村上靖彦、「あの世、恋する身体　看取りにおける垂直的時間について」『宗教哲学研究』、日本宗教哲学会、査読無、vol. 32. , pp. 55-66 , 2015

Yasuhiko Murakami, « Le soin infirmier dans l'hopital psychiatrique au Japon et la mise hors circuit de l'institution medicale »，*Revue Institutions*，査読あり、vol. 55, pp. 57-71，2015

村上靖彦,「現象学的な質的研究の方法論」，『看護研究』，査読無、vol. 48(6), p. 558-566, 2015

〔学会発表〕（計 3 件）

村上靖彦，現象学的な質的研究の考え方　こども食堂でのインタビューを例にして，日本子ども虐待防止学会, 2017.

村上靖彦，変化の触媒としての支援者，日本精神病理学会，2016.

村上靖彦，現象学的方法論の学問的基盤と現象の読み取り方，看護科学学会，2015.

〔図書〕（計 5 件）

【単著】村上靖彦，『在宅無限大　訪問看護の現象学』（仮）、医学書院、2018 予定

【分担執筆】村上靖彦，出来事と出会うための場を開く，合田他編，異境の現象学　＜現象学の異境的展開＞の軌跡 2015-2017, 165-188, 2018

【単著】村上靖彦、『母親の孤独から回復する』、講談社、pp. 1-144、2017

【単著】村上靖彦、『仙人と妄想デートする』、人文書院、2016 年 5 月、pp. 1-241

【分担執筆】Maria Gyamand, Delia Popa (ed.) , *Approches phénoménologiques de l'inconscient*，OLMS，282pp（Yasuhiko Murakami 担当分, pp. 249-262）, 2015

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
村上　靖彦（Murakami,　Yasuhiko)
大阪大学・大学院人間科学研究科・教授
研究者番号:30328679

(2)研究分担者　：なし

(3)連携研究者：なし

(4)研究協力者：なし